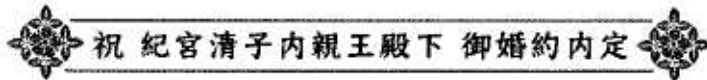


第四十三号



四万十川 自然体験研修会



祝 紀宮清子内親王殿下 御婚約内定

愛媛県神道青年会

事務局

〒793-8555

愛媛県西条市西田甲797 石鎚神社内

TEL 0897-55-4044

FAX 0897-55-7242

中越地震並びにスマトラ島沖地震により被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.ehimeshinsei.net/>



会 長  
和 気 省 一

新春の候、ますますご清祥の御事とお慶び申し上げます。

先ず以ちまして、旧年の各社宮司様、先輩諸賢におかれましては格別なる御厚情を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、当会におきましてはご承知のとおり規程により、四十歳以下の県内神職にて構成することとなっております。

現在、県内には八十余名の「該当」する神職の方々が任用されておりますが、その中から諸活動にご賛

同いただきました方から会費を納入していただき「会員」として諸活動にご協力いただいております、近年におきましては、約四十名の方々が「会員」としてご協力いただいております。しかしながら、その内、約六十%の方が神職と何らかの兼職であるが故、特に平日の活動にはおきましては、ご参加いただけない方が多い現状であります。

今の社会情勢をみますと不況はもちろんのこと、拉致を含めた北朝鮮問題、教育問題、ジェンダーフリー推進等々、国の根幹を揺るがしかねない問題が山積しており、斯界におきましても今後楽観できない状況でございます。

それぞれの地域の氏神様に奉仕する神職であるからこそ、これら時局の問題、後々神社界が抱えるであろう問題等への対応も多種あるかと存じます。

今後、当会がその一助を担える会への充実を目指すと共に、各会員皆様方におかれましては、更なるご協力、ご参加をお願い申し上げます。

## 神道青年四国地区協議会 第十回定例総会並びに研修会

去る平成十六年八月四日、五日に徳島県の徳島縣護國神社・徳島ワシントンホテルプラザに於いて、神道青年四国地区協議会・第十回定例総会並びに研修会が行われました。当会からは、八名参加致しました。

四日午後十二時四十五分に徳島縣護國神社に集合、十三時十五分より正式参拝を行い、十三時四十五分より開講式並びに定例総会を開催致しました。開講式には、研修会でご講演頂く先生や、ご来賓の皆様にも参列頂きました。次いで定例総会では、議長の下円滑な運びで議事は進行し、滞りなく終了致しました。十五時十五分より研修会に移り、今回の研修テーマ「祝詞の言葉

について」とし、先ず基調講演の第一講を「政治家のこゝば」と題して、衆議院議員の後藤田正純先生より政治家の名言や失言、また政治家特有の言葉使い等について語られ、拝聴致しました。

第一講終了後、会場を徳島ワシントンホテルプラザに移し、十八時十五分より懇親会を執り行い、ご来賓を始め、四国四県の会員相互の懇親を深め、その後は徳島の街へと夜は更けていきました。

翌五日は、徳島ワシントンホテルプラザに於いて午前九時より、第二講「祝詞の言葉について」と題し、皇學館大学文学部助教授の本澤雅史先生により、祝詞の意義や歴史等について、また後半には神葬祭について話され講演を締められました。次いで、十一時三十分より閉講式

にうつり、第十回定例総会並びに研修会を終えました。神職と云う立場に於いて、神々に対して、又は人々に対しての言葉の重要性を改めて考える良い機会となりました。最後に、研修会を担当して頂いた徳島県青年神職会の皆様に御礼の言葉を申し上げ、総会並びに研修会のご報告とさせて頂きます。

(田内 逸知)





## 四万十川研修会

去る平成十六年八月二十四・二十五日、高知県幡多郡十和村にて愛媛県神道青年会主催の四万十川研修会を会員家族含め総勢三十四名、一泊二日の予定で開催しました。

二十四日、遠路遙々会員諸氏が松野町おさかな館に集合、そして一路本日の宿泊場所である十和村井崎集会所へ向かいました。凡そ参加者が揃った所で集会所横に鎮座する神社に会長、そして子供達を代表して矢野開也君が玉串を捧げ拝礼し、各自夕食の準備やその他の設営を行いました。夕食が出来る迄子供達は川で水遊びをし、楽しそうな笑顔で直ぐに打ち解けあう姿が微笑ましく思いました。

夕刻には高知県神道青年会の岡田氏も家族で訪れ、そして地元伊東宮司様にも訪問していただき、会長をはじめ参加者全

員で親睦を深めました。

翌二十五日快晴。午前八時頃より朝食を摂り各所片付けを行い午前十時過ぎに場所を十和村交流センターへ移しラフティンクの講習を行いました。今回、幼少の子供達を率いての行事故に安全面では特に留意し、プロのガイドを手配しサポートを充実させて午後から行うラフティングに備えました。昼食後、お昼休みをはさみ、場所を上流に移動し、愈々ラフトによる川下りとなりました。最年少は三歳の女の子で、ガイドとサポートの女は綿密に打ち合わせを行い完全に備えました。そして開始、大きな波や強い流れに子供達は一生懸命パドルを操ります。その驚きの表情や瀬を越えた時の笑顔が素晴らしく思いました。ラフト二艇と別に和気会長にはダッキーという二人乗りのゴムカヤックを準備させてもらいました。田内理事と和気会長コンビも時折後ろ向きになりながらも無事下って行きます。途中ではラフトを滑り台にした遊びや

適度な休憩を織り交ぜながら全員で楽しく、そして事故もなく午後三時過ぎにゴールに到着しました。参加した大人は勿論、子供達には楽しくも貴重な経験になった事でしょう。

午後四時前に解散式を行い今研修会は終了しました。無事終えられた事を主催した部会員とガイドをお願いしたフリーステイトカヤックスの日野氏、大野氏と喜びを分かち合いながら「子供達の中に素敵な思い出が残るといいですね！」と御世話になった四万十川を後にしました。

今研修会は直接的には神社研修の範疇には含まれないものもあるかも知れませんが、多くのものを得られた研修であったと思えます。親睦は勿論ながら自然に対する畏怖や感謝の念を感じられる貴重な体験であった事を、特に参加していただいた子供達が抱く事を祈りたいと思います。また主催は愛媛県神道青年会、そして段取りは広報部会が行いましたが、ご助勢いただいた会員の奥様や細部に渡りサ

ボートしていただいた参加者のご協力があつてこそその無事完遂であつたと思ひます。

殆ど厨房から出る事無くお手の奥様、そして子供達を見ていただいた小野家、大岡家、そしてゲスト参加の岡田家の奥様方には特に感謝の念を捧げたいと思ひます。

最後に「無事完遂」ではあつたものの、些少の哀しい出来事もあつたので、それを列記させて頂いて今研修会のご報告とさせて頂いていただきたいと思ひます。

一、破れた網戸に寄りかかりそのまま縁側に落下してそのかわい額に網戸の網マークが刻印された大岡慎也君。

二、厨房にてガス炊飯器のバツクファイヤに右の睫毛と大切な髭の一部を焼かれた一宮理事。

三、深夜、なぜか一人でおにぎり握っていた阿部会員。

四、夜中に「OっKっい！」と大音声で寝言をいつていた吉田監事。

五、和気会長にダツキーのパートナーを解雇された田内理事。

六、渡部理事の穴埋めに参加させられた松本会員。

七、ラフト開始直前に川を見て「話と全然違うがなー！」と怒っていた矢野副会長。

八、当日直前に長男様がおたふく風邪にかかり参加を断腸の思いで断念された眞鍋監事。

九、身を挺した和気会長の撃沈を笑顔で見っていたら最後に自分も撃沈した十亀事務局長。

十、ラフトの滑り台を滑り降り、そのまま下流に流されていった吉田薫平君。

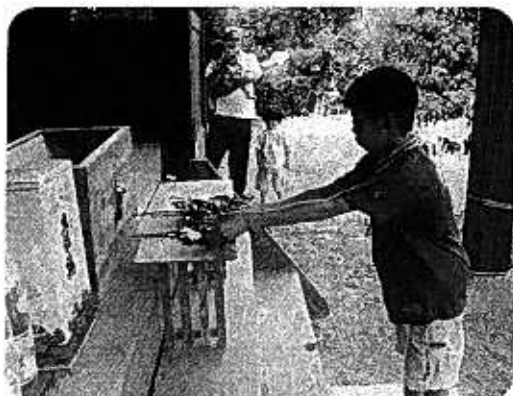
その他まだまだ様々な「哀しみ」がありますが個人の名譽に関わる部分もありますので参加者だけの楽しい思い出とさせて頂いていただき書面では伏せさせて頂いたいただきます(笑)。ご参加いただいた皆様、本当にお疲れ様でした。

(和田 正成)





# 四万十川写真集



開也君も神秘的な顔つきで…



無事を祈って玉串を…



さあ、行きましょうか！



ラフトの裏ですべり台！



来年はどこに行こうかな…



第二十一回 親月神楽の夕べ

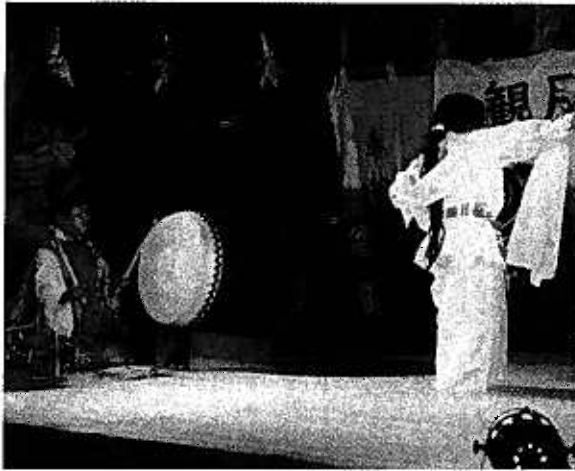
松山市

去る九月十一日、松山市立花町鎮座―井手神社（横田貞子宮司）に於いて恒例の親月神楽の夕べが盛大に開催されました。

当日は会長以下会員に県内の先輩神職の方々、神楽では井手神社氏子の巫女四名、伊豫豆比古命神社の巫女二名と多数の皆様方に本年も御協力を戴き、

- 一、あめのうずめのみ 神躰鉦女之舞（伊予神楽）
- 一、浦安の舞（神 楽）
- 一、うちまい 内舞（伊予神楽）
- 一、越天楽（管 弦）
- 一、陪臚（管 弦）
- 一、悠久の舞（神 楽）
- 一、ひたぎのみ 火烧之舞（伊予神楽）

の演目を奉納し、又境内に御参集を戴きました方々には、井手



神社御祭神の広大無辺な御神慮を幻想的な雰囲気の中で感じとる事が出来たのではないかと思います。

最後になりましたが、開催に当たり多大なる御力添えを賜りました、井手神社氏子総代様を始め関係者各位に深く感謝を申し上げます、報告とさせて戴きます。

（長曾我部 信弥）

チラシ・ポスター・パンフレット等  
各種印刷物お取り扱い致します。

# 首 藤 印 刷 所

代表者 首藤昭夫

〒793-0030 西条市大町1517-2  
電話・FAX 0897-55-3189

皆様からのご用命 心よりお待ちしております

## 初詣ポスターの 梱包作業について

去る九月十五日水曜日の午後二時から愛媛県神社庁に於いて毎年恒例の初詣ポスターの梱包作業が行われました。当日は十二名の会員有志が集まり、氏本学会員のデザインによる初詣ポスターを手際よく梱包し、作業は一時程度で終了しました。

当日梱包されたポスターは十月初旬に神宮大麻・暦の発送に併せて各支部に届けられ好評を得ました。来る新年も各神社の御社頭が隆昌でありますことを祈念して報告いたします。

(武智 秀忠)

### 三島・森田両烈士慰霊祭

去る十一月二十五日午後六時より、伊豫豆比古命神社会館を齋場として、和気会長齋主のもの

と三島由紀夫・森田必勝両烈士の慰霊祭が斎行されました。

三島由紀夫は、理的且つ分析的で、雅を極限まで追い込んだ表現力の文体で、世界に誇れる日本の文豪として知られ、代表作に小説「仮面の告白」「潮騒」「金閣寺」「鏡子の家」「豊饒の海」などがあり、多数の文学賞を受賞。ノーベル文学賞候補にも何度となく上がった作家、文学者であったが、昭和四十五年十一月二十五日自分が隊長を務める「盾の会」の学生長森田必勝ほか三名の同士と、東京市ヶ谷陸上自衛隊東部方面総監部に至り、「檄文」を撒き自衛隊の覚醒と決起を促すも果たさず、「天皇陛下の万歳」を三唱して古式に倣い割腹自決、森田の介錯を受ける。森田また介錯後これに従い殉じられました。

当時三島は、四十五歳。森田は二十五歳でした。

三島は、文人と言うよりは武

人として生きていた「士」であり、信念に生き、その信念貫徹のために死ぬ。それが人間の本望であると考え、そのとおりに人生を全うしました。

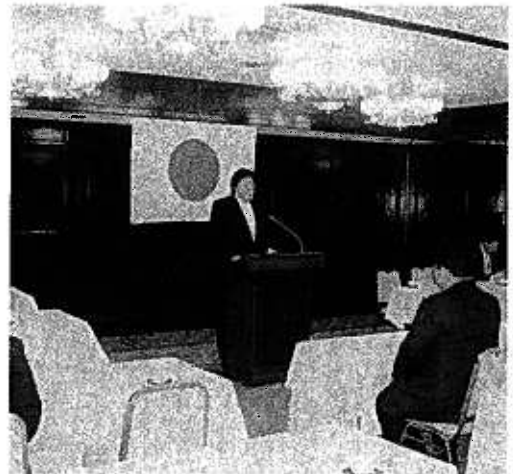
日本の将来の精神(魂)の希薄さ、曇りを憂いてその精神の基は武士道であり、自衛隊にそれを求めたものと考えられます。両烈士没後三十四年の歳月が過ぎ、イラクへの自衛隊派兵や憲法問題を始め、日本文化にある固有の良き物を放棄し、いたずらに欧米化して、民主主義などという優しい耳障りのいい言葉で飾る現在の日本人の精神状態。我々、国民が今一度日本人の本質とは何かを見つめ直して再確認する時期に来ているのではないでしようか。今回三島・森田両烈士慰霊祭に臨んでそう感じました。

(大岡 忠徳)





去る平成十七年一月十九日、国際ホテル松山において平成十六年度愛媛県神道青年会臨時総会・研修会並びに新年互礼会が開催されました。開催に先立ち愛媛縣護国神社において、役員一同が年頭正式参拝を行い、気持ちも一新され清々しく向える事が出来ました。臨時総会では会長以下役員の任期満了に伴う平成十七年度役員選出の件が審議され、執行部案が満場一致で議決されました。総会終了後は「式年遷宮と神宮大麻の意義」と題して東雲短期大学教授、綾延神社宮司 森正康先生のご講演を賜りました。式年遷宮の成り立ちから神宮大麻の意義まで詳しく説明していただき式年遷



宮についての理解と知識が深まりました。また、神社界の懸案でもある神宮大麻の頒布数減少についても、問題解決の糸口となるキツカケが掴めた様な気がします。これを機会に式年遷宮や神宮大麻について、もっと勉強し、氏子崇敬者に教化できるような努力してゆきたいと思えます。研修会の後、愛媛県神社庁副庁長、松浦正樹様を始め、多数のご来賓のご臨席を賜り新年

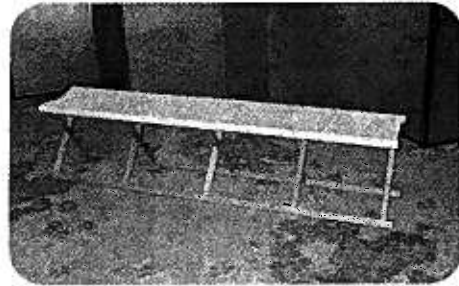
互礼会が行われました。最後に来賓の石鎚神社宮司、十亀興美様の中締めで宴の終了を迎えましたが、十亀興美様のご挨拶の中で、自分が青年会で経験してきた事例を話され、青年会に対しての有難い激励の言葉を頂戴いたしました。こういった先輩諸氏の暖かいアドバイスを忘れずに来る平成十七年度を新たに出发したいと思えます。

(小野哲也)



頒布品の御案内

四人掛床几



長さ 180センチメートル  
幅 33センチメートル  
高さ 44センチメートル  
※耐水幌布使用

◆一脚 17,000円◆

ご注文・お問い合わせは

〒七九三―八五五五

西条市西田甲七九七

石 鎚 社 内

愛媛県神道青年会

事務局 十亀博行

電 話

〇八九七・五五・四〇四四

F A X

〇八九七・五五・七二四二

編集後記

今年こそ新年一月に「若竹」を発刊しようと思いましたが、既に三月となりました。編集責任者として皆様にお詫び申し上げます。

さて、平成十六年は台風が四つも上陸し、全国的に災害の多い年となり、追いつちをかけるように、日本では中越地震、海外ではスマトラ島沖地震による津波災害が発生し多くの尊い生命が奪われました。自然災害に対する備えは絶対に必要なことと思いますが、自然に対する畏敬の念は忘れずいたいものです。

自然といえば、今回、四万十川体験親睦会を実施したところ、多数のご参加を得、子供たちはもちろんのこと、大人等もよい夏の思い出が出来たことと思います。また十七年度も実施してみたいと思っております。前回参加されなかつた方、是非参加してみてください。多数のご参加、心よりお待ち申し上げます。

いよいよ平成十六年度も年度末を控え、慌しい時期となりました。四月からは第二次和気体制が発足し、活動が始まることとなりますが、役員一同が心機一転し、益々青年会の活動を充実させるべく邁進して参りますので、会員の皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(編集者)